

道の駅 パスランドさつつる

河合千尋



1. 清里町について

清里町は北海道東部、知床半島のつけ根に位置し、知床国立公園、阿寒摩周国立公園、網走国定公園に囲まれています。主要産業は農業で、総面積9,200ヘクタール(農家1戸当り36ヘクタール)のわが国有数の大規模畑作農業地帯が広がっています。日本百名山にかぞえられる秀峰「斜里岳」や神秘的湖「摩周湖」の伏流水が湧き出る「神の子池」、サクラマスが遡上する「さくらの滝」などの自然に囲まれ、環境に配慮した緑豊かな町です。

本町の景観は、1991年度(平成3年度)に農林水産省が実施した全国農村景観百選(特選20選)に選ばれています。さらに、2016年(平成28年)に「日本で最も美しい村」に認定されました。「斜里岳のすそ野に広がる防風林の農村風景」「豊かな水と森林資源」「大規模穀物栽培が育てた循環型農業」が評価されたものです。



写真-1 農村風景

また、町民と町の協働によるまちづくりもさかんに行われており、2002年度(平成14年度)には北海道主催の北のまちづくり賞で知事賞、さらに2003年度(平成15年度)には全国花のまちづくり大賞(農林水産大臣賞)、2006年度(平成18年度)に過疎地域自立優良事例表彰で総務大臣賞、2007年度(平成19年度)に緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰に輝くなど、大自然をバックグラウンドとした地域づくり(花と緑と交流のまちづくり)が全町民参加で展開されています。

2. 町の観光振興

清里町は知床国立公園・阿寒摩周国立公園・網走国定公園を結ぶ三角形の中に位置し、環境保全に取り組みながら観光資源を生かして、自然と人とのつながりを大切にし、清里の良さ・魅力を伝えることを基本理念としています。

(1) 町の観光資源

① 斜里岳

1980年(昭和55年)に指定された斜里岳道立自然公園の中心が斜里岳です。道東のマッターホルンと呼ばれる斜里岳は、標高1,547mの単独峰です。山頂部は、斜里岳山頂、南斜里岳、西峰の三つのピークから成り、その中央部に古い火口を持ち、変化にとんだ山容を呈しています。

清里登山道は、多くの滝を見ながら沢沿いに登るルートで、山岳の雰囲気をも十分に味わえ、多くの登山家に愛されています。登山口には山小屋「清岳荘」があります。



写真-2 斜里岳

②神の子池

道道摩周湖斜里線より 2.1km奥に入ると、神の子池があります。摩周湖の伏流水が一日 12,000 トンも湧き出ている、環境省の HP で日本国内の代表的な湧水として紹介されている美しい池です。透明度の高い水に白い火山灰の砂が舞い、青い光が水深 5m の湖底にとどいて秘境の自然そのものの魅力が伝わります。



写真-3 神の子池

③裏摩周

神秘の湖として有名な摩周湖を、北側から眺望することができる裏摩周展望台は、弟子屈町側の第一・第三展望台に比べ比較的霧が少なく、異なった趣の眺望が人気で毎年多くの観光客が訪れています。また、美しい夕日と満点の星空も、裏摩周なら

ではの情緒で一見の価値があります。

④牡鹿の滝

斜里川上流の五の沢にあり、原生林の中に 25m の高さから落ちる大瀑布の景観は素晴らしいものがあります。滝の上流には川がなく、一日 30,000 トンもの斜里岳の銀嶺水が岩から湧出し流れ落ちていきます。牡鹿の滝も環境省の HP で日本国内の代表的な湧水として紹介されています。



写真-4 牡鹿の滝

⑤さくらの滝

斜里川の中流、清里町青葉地区にある落差 3m の滝です。6 月～8 月に遡上するサクラマスが、滝を飛び越えるために何度も何度もジャンプする姿は、見る人の心を魅了します。このさくらの滝、もともと名前はなかったのですが、2002 年(平成 14 年)に名称を公募し「さくらの滝」と命名された隠れた名所です。

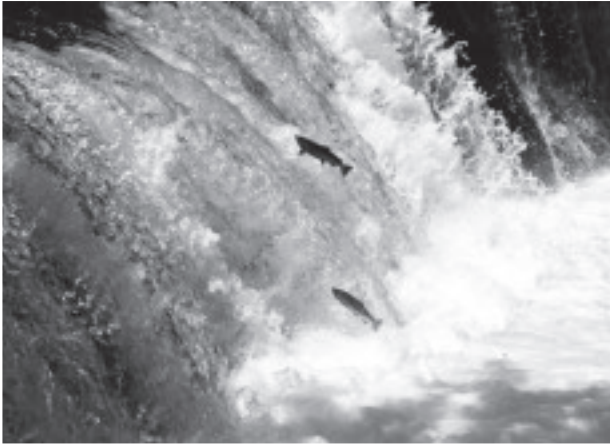


写真-5 さくらの滝

⑥美味しい水

環境省のHPで日本国内の代表的な湧水として「神の子池」「男鹿の滝」のほかに、紹介されている湧水があります。なんと町民が利用している水道の水源「簡易水道水源」です。清里町の水道水は、川から取水しているのではなく湧水なのです。町民も、訪れる観光客からも「水が美味しい」と評判になり、1996年(平成8年)より「清里の水」として販売を始めました。



写真-6 美味しい水

3. パパスランドさつつの概要

(1) 開設の経緯



写真-7 外観

パパスランドさつつは、1991年(平成3年)に温泉を中心とした施設として清里町札弦にオープンしました。温泉施設のほかレストラン、農産物加工施設をはじめ、陶芸、手紬施設などが整備され、札弦地域の総合的な振興施設として開設されたのが最初です。

2007年(平成19年)に道の駅としての指定登録により、道路交通や地域イベントを発信することができる情報端末や案内標識が整備され、施設機能の充実が図られました。

2012年(平成25年)4月には全面改修され、面積を1.5倍にし、斜里岳を正面に見据える位置に改築しました。温泉には新たに露天風呂を増設。レストランも客席を60席に拡大、売店も地場野菜の直売所を設置し特産品の販売も充実、さらに無料のドッグラン、足湯、パークゴルフ場も併設しています。

(2) 名前の由来

清里町の特産品であるじゃがいものスペイン語名「パパス」を施設の名称として使っています。

(3) 施設の特徴

①温泉

北海道に129ある道の駅ですが温泉施設がある道の駅は18、オホーツク管内ではわずか2、そのうちの1つがパパスランドさつつです。

温泉はもちろん天然温泉ですが、パパスランドさつつるでは「アルカリ性単純温泉」と「ナトリウム硫酸塩塩化物温泉」の 2 つの源泉を有しています。ぬる湯・あつ湯の内湯のほか、打たせ湯、露天風呂があります。



写真-8 内湯



写真-9 露天風呂



写真-10 あんかけ焼きそば



写真-11 スープカレー

③売店

特産品のじゃがいも焼酎「北海道清里」をはじめ、ドレッシング・醤油・そば・うどんなど、清里のオリジナル商品を販売しています。また、野菜直売コーナーでは地元の野菜生産者の新鮮な野菜をそろえています。

この施設の成り立ちにも関るものでは、農産物の

②レストラン

2011 年(平成 23 年)10 月北海道より「北のめぐみ愛食レストラン」に認定されています。北海道産食材を積極的に使い、こだわり(自慢)の料理を提供しています。

食材のほとんどは清里産・北海道産を使用し、米は契約農家よりななつぼしを取りよせています。

メニューは洋食と中華の 2 本立、それぞれ専門の料理人が調理しています、特に人気のメニューはスープカレーとあんかけ焼きそば。専門店に引けをとらない美味しさと、高い評価をいただいています。



写真-12 じゃがいも焼酎「北海道清里」

手作り加工品、地域の愛好家が作製した手芸作品や陶芸作品も展示販売しており、ほかの道の駅と同様、北海道ならではのお土産品も充実しています。



写真-13 陶芸



写真-14 ニット

④展示コーナー

清里町は冬季オリンピック(スピードスケート)に出場した選手を多数輩出しています。その内の岡崎朋美さん(長野オリンピック女子 500m 銅メダリスト)と糸川敏彦さん(リレハンメルオリンピック男子 5,000m 6 位入賞)の貴重品を展示しています。このお二人は清里町札弦地区出身で、帰省の際にはパパスランドさつつるにお立ち寄りいただけてます。



写真-15 展示コーナー

⑤その他の施設

テラスには天然温泉の足湯があり、敷地内にはドッグランがあります。足湯にはペット専用の足湯も用意しています。また、併設のパークゴルフ場は 18 ホールの本格コースを有しており、これらの施設はすべて無料で提供しています。



写真-16 ドッグラン



写真-17 足湯

4. 地域との連携

地域の町おこしグループ「まちおこしネット オールさつつる・かもい」の皆さんと共同で、パパスランドさつつるを会場として 2 月に「雪のフェスティバル」というイベントを開催しています。大小の雪像、ソリ滑り、スノーモービル体験、冬の花火大会など、町内外の多くの人で賑わいます。昨年度で 10 回目の開催となりました。



写真-18 雪のフェスティバル 1



写真-19 雪のフェスティバル 2

また、直売所に野菜を提供している生産者の皆さんと共同で、10月に「パパス越冬野菜市」を開催しています。こちらも当日限りの特価でたくさんの野菜を販売しますが、午前中にすべての野菜が売り切れるほどの盛況ぶりです。

教育機関との連携も積極的に進めています。清里小学校は地域学習の一環で今年度は3学年と4学



写真-20 野菜

年が施設に訪れ熱心に見学していました。清里中学校では総合的な学習の時間に、パパスランドさつつるを含めた町の観光振興についての学習に取り組んでおり、パパスランドさつつるから職員を派遣して授業で話しをしたり、中学生がフィールドワークで実際に見学に来たり、取り組みの成果発表会で職員が講評を行っています。北海道清里高校とは、インターシップの生徒を毎年受け入れ、また授業で取り組んでいる特産品を使って開発した商品の販売会場として施設を提供する等、連携を深めています。

5. 今後の展望

2020年(令和2年)からの3年間は、新型コロナウイルス感染症の影響で、入館者が大きく減少しました。しかし2023年(令和5年)には新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、徐々に人の流れも回復してきています。今後はアフターコロナの情勢を的確に捉え、清里町の観光の起点となるベースの役割を担う施設として、サービスの向上を図っていきます。昨年度からはパパスランドさつつる独自のイベントやキャンペーンも実施しており、HPの充実とSNSでの情報発信にも力を入れて、道の駅の情報だけでなく、地域の話、清里町の観光全体に関わる情報も積極的に発信していく予定です。

また、地域の総合的な振興施設として設置された経緯を踏まえ、温泉、レストラン、売店が利用しやすい、気軽に来られる、地域の人に愛される施設を目指します。もちろん、観光で訪れた方が、また立ち寄りたいと思っていただけることも大切にしていきます。そのためには、心が通う接客、いつも綺麗な施設、売店の品揃え、美味しいレストラン、寛げる温泉を基本として施設運営を行いたいと思います。

河合 千尋(かわい ちひろ)

道の駅 パパスランドさつつる 支配人

